

奨学金を増やす考えは

答 今のところ無い



藤井廣明議員

問 義務教育から高校への進学率は。

町長 当町の中学生の進学率は、過去3年間の実績で98・82%となっている。

▽町の奨学金制度の見直しは

問 貸与型でなく給付型にし、また件数も拡大すべきでは。

町長 今は考えていない。



▽町おこしに行政が

どう関わっていくのか

問 行政のかかわる町おこし政策は。

町長 「まち・ひと・しごと」総合戦略を重点に置いている。

町長 「まち・ひと・しごと」総合戦略を重点に置いている。



町おこしの一環として若者が自発的に企画したフリーマーケット
～6月 稲取高原～

問 町政への参加が幸福感と言われる。推進策は。

町長 町の活性化を望む町民の熱意に支援を行っていく。



町道稲取片瀬線の維持管理は

答 重要路線なのでしっかりと整備したい



稲葉義仁議員

問 新白田トンネル内の照明の整備状況は。

町長 13基のうち5基の照明が器具不良等により消灯している。当面は全灯照明を確保する。また平成30年に予定しているトンネル内点検にあわせ照明器具施設の見直しをしたい。

▽町道稲取片瀬線

問 トンネルがカーブしている為か、中でも特に暗い場所がある。既存照明の修繕点灯によりこの

状態を解消できるのか。
町長 全灯照明の点灯で改善を図ることが可能と考える。
問 稲取片瀬線及び本道に添い配管されている水道管の維持管理・点検の体制について伺いたい。
町長 樹木の枝打ちや側溝清掃を定期実施している。舗装については社会资本整備総合交付金の活用により順次改良をしていきたい。特に白田側区間は路面のひび割れ等も見受けられるため経過を観察している。また水道管については目視点検が難しいため、耐用年数による水道管の敷設替えが必要と考えている。
問 白田側区間で路面のひび割れや沈下、側溝や



石積みの亀裂が見られる。道路基礎部分の安全点検・補修が必要ではないかと思うがどうか。また、水道管の耐用年数はどのように設定されているのか。
建設課長 平成26年に路面内部の正常検査を行い、異常はないと判断している。橋梁については、本年度安全点検を実施する予定。

▽防災対策

水道課長 本管の耐用年数は60～80年としている。
問 本路線は国道のう回路として城東地区と稲取地区を結ぶ重要な路線であり、直下には白田地区も立地している。今後安全の確保・維持管理には十分な配慮をお願いしたい。

問 大規模災害発生時の観光客への対応は。
町長 熱川・稲取の両観光協会が立ち上げた防災対策協議会を自主防災組織に位置づけ、資材整備や防災訓練の実施を通し体制整備を図っている。また観光客の避難受け入れ・町外搬送については、町と町観光協会・防災対策協議会が連携し対応を図ることとしている。
問 現在の防災訓練では、災害発生時の初動対

応が中心。大規模地震の発生で災害の影響が長期化した場合の想定も入れべきでは。各施設の従業員数も昔と比較して絞られており、避難客の一時的な受け入れも含め困難な状況が発生する可能性もある。
防災課長 広域避難場所等にも観光客用のスペースを確保する等、体制整備に努めている。また熱川地区では防災公園も完成したので、一時避難所としてうまく活用していきたい。
問 観光客の避難誘導には、各々の組織がどこまで円滑に情報交換・連携できるかがポイントとなると思うので、より具体的な訓練の実施を含め今後も検討をお願いしたい。